

各種報告結果からみる本市の福祉の現状及び課題

1 アンケート調査からみた各務原市の状況

各種アンケート（市民、民生委員・児童委員、団体）の結果をもとに、本市の地域福祉の状況をみると、次のような現状・課題があることがうかがえます。

【市民】

① 近所づきあいの状況 <問 7、問 8>

近所づきあいの程度が希薄化している中で、満足度が増加しています。

あいさつ程度のつきあいがちょうどよい距離感と感じている市民の割合が多いと推測されます。ただし、つきあいが無い市民でも、機会がないという意見も多く、コロナ禍による地域行事の縮小・廃止により、近所づきあいが希薄化したことによる結果でもあると推測されます。

② 孤独・孤立の状況 <問 11、問 17>

「悩みや不安の相談先」や「安心できる居場所」がある市民の割合が高く出ています。

相談先および居場所の大多数が家族、親戚、友人・知人であることから、孤独・孤立に陥っている市民の割合が少ないと推測されます。特に、家族の相談先が5年前より10%以上増加していることから、コロナ禍による家族の時間が増加したことも要因に推測されます。

③ 地域活動・ボランティア活動の状況 <問 23、問 25>

地域活動やボランティア活動への優先度が低下しています。

活動していない市民の主な理由は、60代以下は時間がないこと、70代以上は身体・健康面にて難しいとあります。共働き世帯の増加や定年延長などによる雇用・労働環境の変容やコロナ禍での身体機能の低下が要因に推測されます。ただし、活動に参加するための条件では、時間や期間にしばられないことが挙げられており、時代に合わせた柔軟な対応が地域に求められると推測されます。

④ 福祉サービスの入手状況 <問 20、問 34>

福祉サービスの情報を入手できている市民の割合が増加しています。

広報紙や自治会回覧に加え、SNSなど多様な情報発信の形態が増えたことやスマートフォンなどのICT機器を活用する市民の割合が増えたことで、市の施策情報を入手しやすくなっているものと推測されます。

⑤ 高齢者支援の相談先や見守りグループへの関心状況 <問 18、問 22③>

地域包括支援センターや近隣ケアグループの認知度、関心度が増加しています。

高齢者支援サービスの相談先や地域の見守り活動の認知や関心が高いのは50代以上が多いことから、地域の高齢化とともに、サービスを利用または検討する方が増えたことや声掛け・見守りを必要と感じる方が増えているものと推測されます。

⑥ 地域の課題 <問 1 2>

「地域活動の担い手不足」の課題や「地域住民同士の支えあい・助けあいの減少」の問題が認識されています。

地域住民のまとまりが少なくなっていることへの懸念は5年前より増加している一方、特にない、無関心の割合も増加していることが課題と推測されます。

⑦ 地域福祉活動への理解 <問 2 2 ①②>

社会福祉協議会および地区社会福祉協議会活動への関心度が減少しています。

コロナ禍による地域コミュニティの希薄化、地域行事の縮小・廃止、さらに自治会加入率の低下など、活動を知る機会を失っていることから減少しているものと推測されます。

⑧ 地域福祉に関する重点課題（※全共通）<市：問 3 6、民：問 2 8、団：問 7>

「認知症対策の推進」、「配慮を必要とする子どもや家庭への支援」が共通の重点課題として認識されています。

重要度が高く、満足度が低い取り組み（重点課題）は、社会情勢の問題と類似しています。

【民生委員・児童委員および団体】

① 支援者の悩みや支えあい活動における課題 <民：問 9、問 1 1、団：問 2>

人材に関する問題が多く認識されています。

民生委員・児童委員としての悩みは「相談者本人との関わり方」が多く、支えあい活動の課題においては「関わる人が少ない」「若い人の参加が少ない」「無関心な人が多い」が上位を占め、推進に向けて必要なことは「担い手の人材育成」が多くなっています。また、団体においても同様で、活動での困りごとは「関わる人が少ない」「後継者がいない」が多く占め、人材の確保・育成が喫緊の課題であるとうかがえます。

② 複雑化・複合化する課題 <民：問 8、団：問 6>

様々な要因が重なって解決を困難にしている事例が多く顕在化しています。

支援に取り組む民生委員・児童委員および団体から多くの複合的な困難事例が挙げられています。一方で市民の中では、地域におけるヤングケアラーや8050問題、ひきこもりや不登校などの家庭の認知度は低く、地域全体で見ると潜在化している可能性があるとうかがえます。

2 団体ヒアリングからの意見

地域福祉活動を行う団体（高齢者、障がい児・者、子ども・子育て、生活困窮者、ひきこもり等を支援する6団体）へ実地訪問によるヒアリングを実施したところ、次のような課題が挙げられました。

団体ヒアリングから見えてきた主な課題

- 支援対象者の多様化（認知症者、ひきこもり、ヤングケアラーなど）
- 課題の複雑化・複合化（8050世帯、ダブルケア、ごみ屋敷など）
- 重層的・包摂的な支援体制の構築（団体・機関を跨いだ横断的な連携）
- 日頃からの顔の見える関係づくり、情報共有のネットワークづくり
- 災害時の支援の体制整備、地域との連携
- 人材の確保・育成（特に専門職）
- 支援者のケア（支援者が疲弊を緩和するメンタルヘルスケアなど）

3 地域コミュニティ会議からの意見

地域コミュニティ会議（全17地区）では次のような課題が挙げられました。

地域コミュニティ会議から見えてきた主な課題

- 町内行事や公民館の利用が減り、地域の連帯感が薄れている
- 地域行事の参加率の低下と意識の希薄化（特に若い世代）
- 世代間交流をする機会や伝統を継承する機会が少ない
- 高齢者が気軽に集まれる場所などコミュニケーションの場がない
- 古くからの地域住民と新規転入者の交流が得られない
- 自治会未加入者とのコミュニケーションが取れない
- 高齢化が進み、高齢者世帯、一人暮らしの世帯が増えている
- ごみ出しや移動など生活に不安を感じている
- 空き家が増え、防犯上心配である
- 困りごとを地域で共有し、近所で取り組めるようになっていない
- 支えあい活動、ボランティア活動が活発ではない

4 重点課題のまとめ

各種アンケート、ヒアリング調査、地域コミュニティ会議の調査結果を踏まえ、キーワードを整理し、3つの重点課題にまとめました。

キーワード

<①地域に関すること>

- 地域コミュニティの希薄化
- 地域行事の縮小・廃止
- 自治会加入率の低下
- 地域住民のまとまり
- 地域での困りごとの共有
- 世代間交流
- 地域の声掛け・見守り活動
- 地域の高齢化
- 高齢者世帯や一人暮らし世帯の増加
- 活動を知る機会

<②人に関すること>

- 居場所
- 孤独・孤立
- 人材の確保・育成
- 若い世代の意識の希薄化
- 伝統の継承の機会
- 雇用・労働環境の変容
- 時代に合わせた柔軟な対応
- 時間や期間にしばられない
- 地域活動への無関心

<③支援に関すること>

- 多様な情報発信
- ICT機器の活用
- ごみ出しや移動などの生活支援
- 支援者のケア
- 災害時の支援体制
- 複雑化・複合化した困難事例
- 重層的・包摂的な支援体制
- 顔の見える関係づくり
- 横断的な連携・情報共有

課題①【地域に関することの取り組み】

【地域活動の推進】【見守り・助けあいの活性化】【多様な主体の交流の促進】

課題②【人に関することの取り組み】

【支えあう意識づくり】【担い手の確保・育成】【多様な市民の参画促進】

課題③【支援に関することの取り組み】

【福祉サービスの質の向上・利用促進】【さまざまな困難を抱える人に対する支援の充実】
【防災・防犯活動の促進】

